

【事例Ⅰ】 理科（生物基礎）学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 日 時 令和○年○月○日（○）第○限（○○：○○～○○：○○）

2 ク ラ ス ○年○組（○○型，○○名）

3 場 所 ○○○○

4 使用教材 教科書：「改訂版 生物基礎」（数研出版）

副教材：「フォトサイエンス 生物図表」（数研出版），ワークシート

5 単 元 第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持

6 単元の目標

(1) 神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達と神経系と内分泌系による調節を理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。【知識・技能】

(2) 神経系と内分泌系による調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節の特徴を見いだして表現すること。【思考・判断・表現】

(3) 神経系と内分泌系による調節に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重しようとする態度を養うこと。【主体的に学習に取り組む態度】

7 本時の指導と評価の計画

(1) 単元内での位置

第2編 ヒトの体内環境の維持

第3章 ヒトの体内環境の維持

1 体内での情報伝達と調節 6時間（本時時間4／6時間）

2 体内環境の維持の仕組み 7時間

(2) 重点目標と評価規準 【知識・技能】

内分泌系による情報伝達の仕組みについて理解している。

(3) 本時の展開

学習場面	学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準と評価方法
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 情報を伝達する仕組みについて復習する。 本時の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達の仕組みには、神経系と内分泌系があること、両者の主な特徴について確認する。 	
本日の課題: 内分泌系による情報伝達について知ろう。			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ヒトの主な内分泌腺について確認する。 ホルモンが血液中に分泌され、標的器官の受容体に結合する流れについて、確認する。 ホルモンが分泌されてから作用するまでの流れをペアで確認する。 ワークシートの問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒトの模式図に内分泌腺を描きこませることで、位置や形を把握させる。 ホルモン一つ一つを図示し、流れる様子や標的器官に作用する流れをイメージさせながら説明する。 生徒自身の言葉で学習内容を表現させることで、知識の定着を促す。 教科書やノートは閉じさせる。また、板書も消し、生徒に知識が定着しているのかどうかを把握する。 	内分泌腺でホルモンが作られてから標的器官に作用するまでの流れを理解している。

	・ワークシートの答えをペアで確認後、ワークシートを回収する。	・確認時は筆記用具を置かせ、訂正ができないようにする。	[ワークシートの記述]
まとめ	・本時の学習の振り返りを行う。		

(4) 評価基準 【知識・技能】の評価

A 問いの正誤を正確に把握し、誤りを正しく訂正できている。また、受容体とホルモンの特異性の関係についても適切に表現できている。

B 問いの正誤の把握や誤りの訂正、受容体のホルモンに対する特異性について一部不十分なところがあるが、一定の理解が見られる。

C 問いの正誤の把握や誤りの訂正ができておらず、知識の習得が不十分である。また、受容体のホルモンに対する特異性についても表現できていない。

※Cの場合は、本人がどの部分で理解できていないのかを対話などから把握し、理解が不十分な箇所の補足を行う。

8 授業者の振り返りと授業改善に向けて

ホルモンが特定の器官にのみ運ばれるという認識の記述があったため、ホルモンが全身に運ばれることを再度確認する必要がある。

9 御高評